



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「教養教育(全学教育):夜間主」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010D8	科目番号	05600010
授業科目名	■教養セミナー(経済)		
編集担当教員	角田 享介		
授業担当教員名(科目責任者)	角田 享介		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	角田 享介		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]本館33演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育):夜間主**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010D9	科目番号	05600010
授業科目名	■教養セミナー(経済)		
編集担当教員	鈴木 斉		
授業担当教員名(科目責任者)	鈴木 斉		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	鈴木 斉		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]本館46演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育):夜間主**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010E0	科目番号	05600010
授業科目名	■教養セミナー(経済)		
編集担当教員	薛 軍		
授業担当教員名(科目責任者)	薛 軍		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	薛 軍		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]本館44演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育):夜間主**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010E1	科目番号	05600010
授業科目名	■教養セミナー(経済)		
編集担当教員	松本 陸樹		
授業担当教員名(科目責任者)	松本 陸樹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	松本 陸樹		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]本館34演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育):夜間主**」
シラバスの詳細は以下となります。



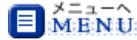
学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010E2	科目番号	05600010
授業科目名	■教養セミナー(経済)		
編集担当教員	矢島 邦昭		
授業担当教員名(科目責任者)	矢島 邦昭		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	矢島 邦昭		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]本館32演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバスイ覧 > シラバス参照

Login User 本田 垂紀 『 全学教育(夜間主) 』

タイムアウトまでおよそ1799秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育):夜間主**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木6																										
開講期間																													
必修選択	選択	単位数	2.0																										
時間割コード	20120561001050	科目番号	05610010																										
授業科目名	■情報処理入門																												
編集担当教員	鈴木 斉																												
授業担当教員名(科目責任者)	鈴木 斉																												
授業担当教員名(オムニバス科目等)	鈴木 斉																												
科目分類	情報処理科目																												
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																										
教室	[経]本館MS1																												
対象学生(クラス等)	経済学部夜間主コース																												
担当教員Eメールアドレス	sigh@nagasaki-u.ac.jp																												
担当教員研究室	経済学部本館 631																												
担当教員TEL	095-820-6372																												
担当教員オフィスマワー	講義時間終了後、および、sigh@nagasaki-u.ac.jpにて受け付けています。																												
授業のねらい	情報およびコンピュータに関する基礎理論や概念を理解した上で応用知識を備えさせるとともに、それらを自在に活用できる能力を身につけさせる。 また、ネットワークを利用する際に考慮すべきセキュリティや情報倫理についても理解する。																												
授業方法(学習指導法)	授業は、講義と演習を組み合わせる。授業時間内の操作演習や授業時間外の課題を通し講義内容の理解を深める。 eラーニングシステムWebClassを、授業資料や演習課題の提示、課題回収や返却、各種連絡等に活用する。																												
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器やネットワークの機能に関わる基本的事項を説明できる。 ・情報機器やネットワークを利用する際の倫理やセキュリティを十分に理解し、ネットワークを活用できる。 ・パソコンで情報を扱うための情報リテラシーが身につく。 ・インターネット(Web)、電子メール、プレゼンテーション、文書作成、表計算を基本的に理解し、操作方法や活用方法を説明できる。 ・情報資源・ネットワーク環境を利用して、情報を収集、分析、活用できる。 																												
授業内容	<p>原則として以下の内容に沿って授業を進めるが、進捗や理解度の状況に応じて若干の変更を行うことがあります。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス(授業方法の説明)、学習概要、授業で使用するコンピュータ環境、メール</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>情報の検索・活用と情報倫理 情報検索の仕組みと手法、情報の信頼性と信ぴょう性、情報倫理</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>情報セキュリティ 情報セキュリティとは、利用者・組織が取るべきセキュリティ対策</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文書作成(1) Microsoft Wordの操作、文字の書式、段落の書式(1)、ページの設定</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>文書作成(2) 段落の書式(2)、オブジェクトの操作、表の作成</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>文書作成(3) ワードプロを用いる利点、作業環境の設定、スタイル</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>表計算(1) Microsoft Excelの機能、基本操作、数式、表の書式設定</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>表計算(2) セルの参照、関数、書式の設定</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>表計算(3) データの検索・並び替え・抽出・集計、複数シートを使ったデータ処理</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>表計算(4) グラフ、表・グラフの印刷、アプリケーションの連携</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>情報のデジタル化 情報のデジタル化とは、文字・音声・画像のデジタル化</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>プレゼンテーション プレゼンテーションとは、資料作成上の留意点、PowerPointについて</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	ガイダンス(授業方法の説明)、学習概要、授業で使用するコンピュータ環境、メール	2	情報の検索・活用と情報倫理 情報検索の仕組みと手法、情報の信頼性と信ぴょう性、情報倫理	3	情報セキュリティ 情報セキュリティとは、利用者・組織が取るべきセキュリティ対策	4	文書作成(1) Microsoft Wordの操作、文字の書式、段落の書式(1)、ページの設定	5	文書作成(2) 段落の書式(2)、オブジェクトの操作、表の作成	6	文書作成(3) ワードプロを用いる利点、作業環境の設定、スタイル	7	表計算(1) Microsoft Excelの機能、基本操作、数式、表の書式設定	8	表計算(2) セルの参照、関数、書式の設定	9	表計算(3) データの検索・並び替え・抽出・集計、複数シートを使ったデータ処理	10	表計算(4) グラフ、表・グラフの印刷、アプリケーションの連携	11	情報のデジタル化 情報のデジタル化とは、文字・音声・画像のデジタル化	12	プレゼンテーション プレゼンテーションとは、資料作成上の留意点、PowerPointについて
回	内容																												
1	ガイダンス(授業方法の説明)、学習概要、授業で使用するコンピュータ環境、メール																												
2	情報の検索・活用と情報倫理 情報検索の仕組みと手法、情報の信頼性と信ぴょう性、情報倫理																												
3	情報セキュリティ 情報セキュリティとは、利用者・組織が取るべきセキュリティ対策																												
4	文書作成(1) Microsoft Wordの操作、文字の書式、段落の書式(1)、ページの設定																												
5	文書作成(2) 段落の書式(2)、オブジェクトの操作、表の作成																												
6	文書作成(3) ワードプロを用いる利点、作業環境の設定、スタイル																												
7	表計算(1) Microsoft Excelの機能、基本操作、数式、表の書式設定																												
8	表計算(2) セルの参照、関数、書式の設定																												
9	表計算(3) データの検索・並び替え・抽出・集計、複数シートを使ったデータ処理																												
10	表計算(4) グラフ、表・グラフの印刷、アプリケーションの連携																												
11	情報のデジタル化 情報のデジタル化とは、文字・音声・画像のデジタル化																												
12	プレゼンテーション プレゼンテーションとは、資料作成上の留意点、PowerPointについて																												

	13	ネットワークの仕組み コンピュータのネットワーク、インターネットの構成
	14	Webページ作成 HTML、Webページの作成
	15	総合演習
	16	まとめ、試験
キーワード	情報リテラシー、情報倫理、情報セキュリティ、ネットワーク社会	
教科書・教材・参考書	講義資料を配布します。必要に応じて適宜追加資料や課題などをWebClassにて提示します。	
成績評価の方法・基準等	定期試験 30% コンピュータの動作原理、情報を扱う上で必要となる倫理観等が実際に理解できているかを筆記式の試験で確認します。 演習課題 60% 機器操作を伴う課題への取り組みや完成状況を基に判断します。 授業への参加状況 10% 作業指示に従わない場合や演習妨害等の行為を減点とします。	
受講要件(履修条件)	特にありません。	
本科目の位置づけ	情報メディア基盤センターの端末を活用出来るようになる。また、専門課程での学習に役立てられるようコンピュータ関連の技術的な基礎、および、原理の概要を習得する。	
学習・教育目標	特にありませんが、コンピュータの操作に慣れていない場合は、毎日少しの時間でもキーボードに触れる時間をとることが望まれます。	
備考(URL)		
備考(準備学習等)		



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育):夜間主**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金7																		
開講期間																					
必修選択	選択	単位数	2.0																		
時間割コード	20120566009050	科目番号	05660090																		
授業科目名	■経済と経営(経済学入門)																				
編集担当教員	工藤 健																				
授業担当教員名(科目責任者)	工藤 健																				
授業担当教員名(オムニバス科目等)	工藤 健																				
科目分類	人文・社会科学科目																				
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目																		
教室	[経]新館201講義室																				
対象学生(クラス等)																					
担当教員Eメールアドレス	tkudo@nagasaki-u.ac.jp																				
担当教員研究室	経済学部本館5階521研究室																				
担当教員TEL	095-820-6369																				
担当教員オフィスパワー	月曜日16:00-19:00, 金曜日授業終了後 または E-mailで予約																				
授業のねらい	この授業では、財政政策や金融政策など国内経済全体に影響をおよぼすマクロ経済政策について、経済理論や公的機関のデータを用いて客観的に考察し、議論できるようになることを目的としている。																				
授業方法(学習指導法)	講義形式で基礎的な知識を提供する。その理解を確認するために、授業中の小テストや宿題(演習問題と課題レポート)を実施する。また、必要に応じて各種政策に関するトピックについてディスカッションを行う。																				
授業到達目標	この授業を通じて、それぞれの受講者が (1)厚生経済学の基本的な考え方を身につけて、資源の再配分や所得再配分を伴う経済政策を、一定の基準から評価できるようになる。 (2)景気の安定化に資する財政政策のあり方と現在の課題について、簡単なマクロ経済モデルや現実の景気循環指標を用いて、考察や議論できるようになる。 (3)景気の安定化に資する金融政策のあり方と現在の課題について、簡単なマクロ経済モデルと、現実の物価や景気のデータを用いて、考察や議論できるようになる。 事を目標とする。																				
授業内容	<p>おおむね次のスケジュールで講義を実施していく。</p> <p>(1)第2回～第5回:経済政策の評価基準としての厚生経済学について。 (2)第6回～第10回:経済安定化に資する財政政策のあり方と現在の課題について。 (3)第11回～第15回:経済安定化に資する金融政策のあり方と現在の課題について。</p> <p>(下記に毎回の授業の内容を示す。なお、各回の授業内容については、受講者の関心・理解度や進捗状況に応じて変更される場合もありうる。)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンスとイントロダクション:経済政策分析の基礎</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>厚生経済学の基礎(1):個人の選好と意思決定</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>厚生経済学の基礎(2):取引の利益とパレート効率性</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>厚生経済学の基礎(3):補償原理とその応用</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>厚生経済学の基礎(4):社会厚生関数</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経済安定化と財政政策(1):景気循環のおもな指標</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経済安定化と財政政策(2):マクロ経済分析の基礎</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>経済安定化と財政政策(3):財政政策の乗数効果</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	ガイダンスとイントロダクション:経済政策分析の基礎	2	厚生経済学の基礎(1):個人の選好と意思決定	3	厚生経済学の基礎(2):取引の利益とパレート効率性	4	厚生経済学の基礎(3):補償原理とその応用	5	厚生経済学の基礎(4):社会厚生関数	6	経済安定化と財政政策(1):景気循環のおもな指標	7	経済安定化と財政政策(2):マクロ経済分析の基礎	8	経済安定化と財政政策(3):財政政策の乗数効果
回	内容																				
1	ガイダンスとイントロダクション:経済政策分析の基礎																				
2	厚生経済学の基礎(1):個人の選好と意思決定																				
3	厚生経済学の基礎(2):取引の利益とパレート効率性																				
4	厚生経済学の基礎(3):補償原理とその応用																				
5	厚生経済学の基礎(4):社会厚生関数																				
6	経済安定化と財政政策(1):景気循環のおもな指標																				
7	経済安定化と財政政策(2):マクロ経済分析の基礎																				
8	経済安定化と財政政策(3):財政政策の乗数効果																				

	9	経済安定化と財政政策(4): 租税と財政政策
	10	経済安定化と財政政策(5): 公債発行と財政政策
	11	経済安定化と金融政策(1): 貨幣残高と物価水準
	12	経済安定化と金融政策(2): 中央銀行と銀行部門
	13	経済安定化と金融政策(3): 資産市場における貨幣と利子率
	14	経済安定化と金融政策(4): 金融政策の効果
	15	経済安定化と金融政策(5): 金融政策の効果(つづき)
	16	定期試験
キーワード	厚生経済学の基礎, マクロ経済学, 経済安定化, 財政政策, 金融政策	
教科書・教材・参考書	<p>テキスト: 講義資料を配付する</p> <p>参考書:</p> <p>グレゴリー・マンキュー(2008)『マンキュー 入門経済学』, 東洋経済新報社.</p> <p>ヨラム・パウマン(山形浩生[訳])(2011)『この世で一番おもしろいミクロ経済学: 誰もが「合理的な人間」になれるかもしれない16講』, ダイアモンド社.</p> <p>脇田成(2012)『マクロ経済学のナビゲーター[第3版]』, 日本評論社.</p> <p>(そのほかは講義中に指示する)</p>	
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験30%(宿題や平常点の得点が一定基準を下回る場合は受験資格を失う。詳細は1回目の講義で説明する。) ・宿題45%(演習問題15%, 課題レポート30%) ・平常点25%(授業中の小テスト15%, 授業への積極的な参加や貢献10%) ・得点率60%以上を合格とする。ただし, 定期試験の受験は必須とする。 	
受講要件(履修条件)		
本科目の位置づけ	夜間主コース向けの全学教育(平成23年度入学者までの旧課程)の科目である。	
学習・教育目標		
備考(URL)	http://webclass.cc.nagasaki-u.ac.jp/	
備考(準備学習等)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義資料の配付や宿題の提出にeラーニング教材WebClass(上記備考のURLを参照)を利用する。 ・授業中にeラーニング教材を利用する場合があるので, 携帯端末(携帯電話, スマートフォンやノートPCなど)を準備すること。(困難な場合は相談に応じる) ・第1回に講義の進め方や宿題の提出方法等について解説するので, 必ず出席すること。欠席した場合は, 履修登録前に担当者にE-mail等で連絡を取ること。 	





シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育):夜間主**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120567001050	科目番号	05670010
授業科目名	■人間の科学(乳幼児の不思議を探る)		
編集担当教員	井口 均		
授業担当教員名(科目責任者)	井口 均		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	井口 均		
科目分類	人間科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]本館12講義室		
対象学生(クラス等)	1年生		
担当教員Eメールアドレス	hitoshi@konishi@		
担当教員研究室	225		
担当教員TEL	095-819-2388		
担当教員オフィスアワー	随時(但し、事前連絡必要)		
授業のねらい	①乳幼児期にみられる不思議な現象について知り、人間の子どもの成長・発達の特異性について理解する。 ②乳幼児の発達の状況と、幼保一体化の動向と問題点について理解する。		
授業方法(学習指導法)	基本的には講義形式による授業。レジュメ、配布資料、P.P.、DVD、ビデオ教材なども活用する。		
授業到達目標	①人間の子どものもつ具体的な特異性と乳幼児期の教育・保育のもつ重要性について説明できる。 ②乳幼児の教育・福祉制度の基礎的仕組みについて説明できる。 ③幼稚園・保育園一体化のもつ問題点について説明できる。		
授業内容	第1回 オリエンテーション I : 人間の発達と乳幼児期 第2回 受精のメカニズム 第3回 ヤノマミ族にみる出産 第4回 人間の子どもの出産時の特徴 第5回 赤ちゃんの初期行動の変化と脳の関係 第6回 先取りの早期教育の効果？ 第7回 初期教育・保育の質と発達への影響 第8回 乳幼児期の発達を考える(1)―発達概要― 第9回 乳幼児期の発達を考える(2)―人格形成の基礎― 第10回 子どもが育つ―ある認可外保育園の事例― 第11回 乳幼児教育・保育の仕組み 第12回 少子化社会が抱える問題 第13回 乳幼児教育・保育の世界的動向 第14回 子育て新システムとは何か 第15回 幼保一体化で何が問題か		
キーワード	乳幼児、発達、人格形成、幼稚園、保育園、子育て新システム、幼保一体化		
教科書・教材・参考書	自作資料、ビデオ等。参考書は随時紹介。		
成績評価の方法・基準等	・リアクションペーパー20点、小レポート30点(A4で2~3枚程度:約3000字)、最終課題50点、総合評価で60%以上で合格。		
受講要件(履修条件)			

本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバス一覧 > シラバス参照

『 全学教育(夜間主) 』

タイムアウトまでおよそ1799秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育):夜間主**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	月6
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120568007050	科目番号	05680070
授業科目名	■生物の科学(動物行動の分析学)		
編集担当教員	高橋 正克		
授業担当教員名(科目責任者)	高橋 正克		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	高橋 正克		
科目分類	自然科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]本館21講義室		
対象学生(クラス等)	経済学部夜間主学生		
担当教員Eメールアドレス	takahasi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部新館2F(高橋研究室)		
担当教員TEL	095-819-2090 (Ext 2090)		
担当教員オフィスアワー	特別に設けません。事前に電話・メール等でアポイントメントをとってから来室して下さい。		
授業のねらい	ヒトは、動物の行動を通じて有用な薬物の開発や危険性の予知など多様な情報を獲得してきた。動物の行動科学を基盤に、ヒトが生きていく上で必要な健康や病気の治療に用いられる医薬品の開発について学び、動物行動科学の応用性と薬物の有用性、有害性について一般教養レベルで理解する。		
授業方法(学習指導法)	基本的に講義形式で行うが、できるだけ口頭による質疑応答を取り入れ理解度を探りながら進める。必要に応じて、ハンドアウトを配布する。また、OHPなども利用して理解を進める。		
授業到達目標	動物の行動から何がわかるか説明できるようになる。一般教養として、動物実験データの基本的な推計学的分析ができ、信頼性について理解し、説明できるようになる。薬物の適正使用や乱用薬物の有害性について理解する。		
授業内容	動物の行動の基本事項、動物モデル、行動機能試験、医薬品の適正使用と薬物乱用、動物実験とデータ処理について学び、基本的な動物行動科学を理解する。		
	第16回目:定期試験を行う。		
	回	内容	
	1	授業の進め方 動物の行動(1) 本能行動	
	2	動物の行動(2) 動物実験とその意義、各種疾患モデル動物	
	3	動物の行動機能試験(1) 向精神薬の開発のための動物モデル1	
	4	動物の行動機能試験(2) 向精神薬の開発のための動物モデル2	
	5	動物の行動機能試験(3) 動物と不安、ストレス	
	6	動物の行動機能試験(4) その他の医薬品開発のための動物モデル	
	7	乱用薬物の評価法(1) 医薬品の適正使用と薬物乱用	
	8	乱用薬物の評価法(2) 乱用薬物と動物の行動	
	9	学習・記憶過程の評価法(1) 抗健忘薬・向知性薬と動物の行動	
	10	動物実験とデータ処理(1) 検定法の基礎事項	
	11	動物実験とデータ処理(2) 動物実験で使用される基本的検定法1	
	12	動物実験とデータ処理(3) 動物実験で使用される基本的検定法2	
13	動物実験とデータ処理(4) 動物実験で使用される基本的検定法3		

	14	特殊毒性評価法・検定法 メンデルの実験データを考える
	15	全授業の総括
	16	定期試験
キーワード	動物行動科学 動物モデル 乱用薬物 行動分析 行動毒性 推計学	
教科書・教材・参考書	教科書は用いない。適宜、ハンドアウトを配布する。	
成績評価の方法・基準等	定期試験(60%)、随時行う講義中の小テスト(20%)および授業への積極的な参加・貢献度(20%)から総合的に判断して成績評価を行う。	
受講要件(履修条件)	原則として全回出席することを単位認定の要件とする。	
本科目の位置づけ	一般教養レベルとして医薬品開発のための動物実験や動物の行動分析を学び、今後の学習への志向、態度を涵養する。	
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.